

家畜ふん堆肥の地域内での利用を促進

高粱・津山地域で堆肥の生産・流通化に取り組む畜産農家等
(乳用牛・肉用牛・豚・鶏を飼育する畜産農家等60戸)
及び、堆肥の利用者である地域の耕種農家(有機無農薬農産物
生産集団や兼業・専業農家)や一般住民(津山市近郊の一般世
帯)

事例の内容

1 家畜ふん堆肥の地域内利用促進には関係機関の支援が不可欠

昨今の畜産経営を取り巻く諸情勢の変化は厳しく、特に環境保全と資源循環型農業についての関心が高まっています。畜産経営においても、これに答えるべく、良質堆肥の生産に取り組む事例が増えています。

しかし、生産された堆肥が地域内で利用されるためには、堆肥についての情報が地域内で周知されることや、耕種農家の堆肥利用に対する啓発が必要であり、関係者の迅速な支援が急務の課題と言えます。そこで、これまで関係機関と連携し、家畜ふん堆肥の利用促進に取り組んだ経過(平成11年度高粱、平成13年度津山)について紹介し、参考に供したいと思います。

2 堆肥マップの作成・配布

堆肥マップは、地図上に堆肥の生産・供給を行っている畜産農家の位置を示すとともに、そこで生産されている堆肥の材料、供給形態、特徴や連絡先等を記載したものです。

マップ作成に当たっては、まず、市町村担当者等と協力して畜産農家の堆肥生産・流通の実態把握を行うとともに、マップ作成の趣旨説明と掲載希望者を募りました。掲載希望者について、マップへの記載事項の聞き取りを行うとともに、堆肥の成分分析の支援(助成措置)も実施しました。

作成したマップは、高粱管内では各JA等を通じ耕種農家に配布しました。また、津山管内では、JAつやまの全組合員(24,000世帯)へ広報誌便を利用して配布しました。

3 耕種農家に対する堆肥利用の啓発

高粱管内では、有機無農薬集団等耕種農家や畜産農家、関係機関担当者を対象に堆肥の生産利用・土づくり効果等の研修会を開催し、家畜ふん堆肥の特性や実用的な使用方法についての知識向上に努めました。

津山管内では、青空市出荷者等の耕種農家や関係機関担当者を対象に、堆肥の品質の見分け方(簡易な腐熟度判定)や土づくり効果等の研修会を、普及センターの耕種関係普及員と一緒にしています(写真1)。



写真1 堆肥の腐熟度簡易判定法(ミミズによる)研修(講習)会の様子

このような身近で地道な活動が、耕畜連携への推進力だと自負しています。

写真2

未熟な堆肥から逃げようとしているミミズ



技術解説

1 堆肥マップに掲載した畜産農家の堆肥化処理方法

副資材(敷料や処理時に添加)や予備乾燥等で水分(容積重)調整を行った後、堆積繰り返し発酵で腐熟させている事例が主体であるが、ふん乾ハウスによる乾燥ふんやコンポスト等による密閉式通気発酵も一部行われている。

副資材としては、モミガラ・イナワラ・オガクズ・バーク等が使われ、一部ではヌカや発酵菌が使用されている。また、家畜ふんのみをアピールしている所もある。

堆肥化処理施設の処理能力については、現状の施設では必ずしも充分でなく、自己所有地(ほ場)に土壌還元等しながら、何とか環境汚染防止に努めている姿が実態としてある。

2 堆肥マップに掲載した堆肥の成分

各経営体で生産・供給している堆肥・乾燥ふん等の成分の分析値は、水分では12～75%とかなり幅があった。C/N比については、7～42の値であったが、ほとんどが10～30の範囲におさまり特に問題はなかった。

肥料成分の窒素・りん酸・カリについて、牛ふん堆肥の一部にややカリが多いものがみられ、また、鶏・豚ふん堆肥はりん酸の割合が高い特徴を示した。

3 堆肥マップに記載した堆肥の価格等

袋詰めで一袋当たり150～500円、バラでトン当たり1,000～8,000円と、かなり価格差がみられた。また、配達については、無料～1回3,000円あるいは、要相談としており、ほ場散布も町内なら可能というところがあった。耕種農家労働力の高齢化に伴い、配達や散布サービスは販売促進の面から有利と思われる。

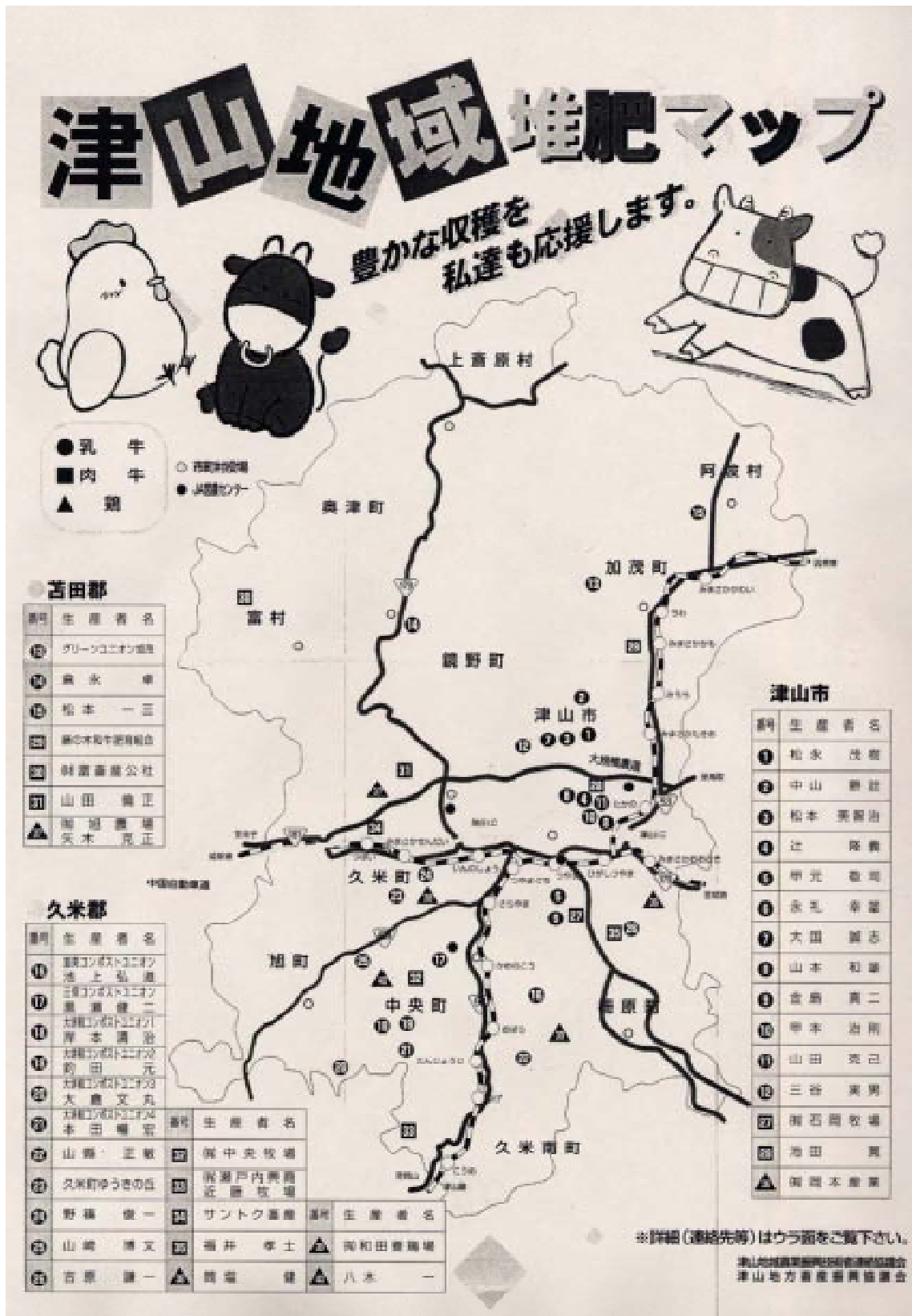
参考にする場合の留意点

1 堆肥利用者の意向把握も重要

堆肥利用に関するアンケートを継続実施している。質問は堆肥の施用場所(家庭菜園とか)・堆肥を選ぶ際のポイント・堆肥の購入先とそれをどうやって知ったか・購入の希望価格・堆肥の生産・販売に関する情報への関心度等を設けた。一部を取りまとめた傾向であるが、総体的には堆肥利用への関心は高く、土壌改良の目的も良く理解されていた。購入のポイントも腐熟度や扱い易さを多くあげ、値段は、バラでは安い物を求めているが、袋モノは必ずしも安ければいいという訳でなく、200円～350円の価格帯へ回答が集まり、値頃感もあるように感じられた。

津山農業改良普及センター 貞政 和男(前任地:高梁)

* 参考資料



連絡先等は裏面に記載されている。本資料では省略。